

9. 肥効調節型肥料による大豆の省力施肥法

福島県農業試験場種芸部・平成10～11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 普通畑作物—大豆—施肥法 02—05—13000000

2 担当者 二瓶直登・丹治克男

3 要 旨

肥効調節型肥料を用いることで、全量基肥の省力施肥が可能である。さらに接触施肥にすることで減肥の可能性が示された。

(1) 品種はタチナガハ、晩播・無培土栽培とし、基肥N:0.3kg/a・追肥N:0.6kg/a(LP70)、全量基肥N:0.9kg/aとした。

(2) 速効性肥料(大豆化成500,N:0.3kg/a)とLPS100(N:0.6kg/a)を基肥に併用することで、全量基肥施肥が可能となる。

(3) LP100(N:0.9kg/a)を基肥に用いると速効性肥料なしで全量基肥施肥が可能である。

(4) LP100を接触施肥とした場合、2/3に減肥しても慣行区と収量に差はない。

(5) 全量基肥栽培では、収量・百粒重・粗蛋白含量・外観品質ともに慣行区並から優る。

(6) 全量基肥栽培に適応する肥効調節型肥料のタイプや施用量については未検討である。